

第3回 医療クラスター形成会議 議事概要

➤ 日 時：平成28年7月29日（金）10:00～11:30

➤ 場 所：新阪急ホテル

➤ 出席者

<センター以外（委員・オブザーバー）>

- 大阪府副知事 新井氏（大阪府知事代理）
- 吹田市長 後藤氏
- 摂津市長 森山氏
- UR西日本支社長 西村氏
- 関西経済連合会専務理事 松村氏（関西経済連合会会長代理）
- 大阪商工会議所会頭 尾崎氏
- 吹田商工会議所副会頭 柴田氏（吹田商工会議所会頭代理）
- 日本製薬工業協会専務理事 川原氏（日本製薬工業協会会長代理）
- 日本医療機器産業連合会会長 中尾氏
- 大阪大学医学部附属病院病院長 野口氏
- 京都大学医学部附属病院副病院長 平家氏（京都大学医学部附属病院病院長代理）
- 医薬基盤・健康・栄養研究所理事長 米田氏
- 厚生労働省医政局医療経営支援課長 佐藤氏
- 経済産業省近畿経済産業局地域経済部長 吉野氏
- 国土交通省近畿地方整備局建政部長 寺本氏
- 西日本旅客鉄道株式会社創造本部えき・まち創造グループ部長 谷氏（オブザーバー）
- 近鉄不動産株式会社専務取締役ハウジング事業本部長 善本氏（オブザーバー）

<センター>

座長：小川理事長、事務局：西辻企画戦略局長、外村財務経理部長 畑井移転建替推進部長他

➤ 議事概要

○小川理事長挨拶

医療クラスター形成会議は、今回が第3回目となる。本日はイノベーションパークを中心に、最近の状況を報告させていただき、ご議論をいただければと思う。よろしくお願ひしたい。

○議題1「医療クラスター形成に関する進捗・検討状況について」

・西辻局長より資料1から資料3を説明

（資料3の説明概要）

健都イノベーションパークと並んで、この地を医療クラスターとしていく上で大きな役割を担うのが、国立循環器病研究センターの中に配置するオープンイノベーションセンター。国循と1つ屋根の下で共同研究を進めていく拠点である。現在、センターと外部との共同研究は年間で200件弱あるが、さらに上手くイノベーションが創出できる環境を作りたいと思っている。特長としては、人的なリソースはもとより、バイオバンクやビックデータ、トレーニングセンター等の様々なリソースを使って

研究開発を行っていただく、そしてまさに同じ建物の中に入ることで密接な連携が可能になる。また、研究をサポートするために、我々と入居企業との関係だけではなく、入居企業同士の横の関係、さらにはイノベーションパーク進出企業との関係もコーディネートできるような機能を備えたいと思っている。コーディネート機能は4階に置き、セミナー室などのスペースも用意する。

全体面積は6,000㎡ぐらいであるが、共有スペースをかなり広く取っており、入居スペースは2,300㎡ぐらいになる。入居企業のイメージは、ここに入居し、壁1枚隔てた臨床・研究エリアと連携することで、効果的な成果を出せるような共同研究の相手方の企業である。仕様はスケルトン構造で壁を柔軟に設定でき、企業ニーズに応じてスペースを加減できる。病棟に隣接するというメリットを生かし、案件によっては研究者の臨床のフロアへのアクセスも認める方向で考えていきたい。

すでに色々な企業からもお問い合わせをいただいているが、これからこうした資料を元にお話をしつつ、共同研究案件の中からここに入っていただけるところを探っていきたいと考えている。

・吹田市後藤市長より資料4を説明

(資料4の説明概要)

健都イノベーションパークの概要、位置付けについてご説明をさせていただく。イノベティブな研究開発エリアとして4ha、吹田市の所有地として9画地あり、8月、来月に公募を考えている。長期の定期借地と考えていたが、売却のニーズの方が遥かに高いということで、売却を軸に進めたい。

医薬品、医療機器などに関する研究所又は研究機能を併せ持つ施設を想定している。今後、大阪府、摂津市と手を取り合って、事業者募集などに全力で取り組んで参りたい。

参考資料に触れさせていただくと、健都の1番西に健康増進広場を整備する。一言で言うと「体」の部分になる。次に、健都ライブラリーという「知」、インテリジェントな施設を作る。健康カフェもここにつくる。ウェルネス住宅は、「暮らし」。これらが全体の付加価値を高めるよう、健都というまちづくりに横串が刺さることを強く意識したまちづくりを進めたい。

イノベーションパークを中心に説明をさせていただいた。皆様のご協力を是非お願いしたい。

・摂津市森山市長より資料5を説明

(資料5の説明概要)

摂津市域は全体の約3分の1を占めており、既に明和池公園を整備した。健康器具を設置し、日頃は市民の憩いの場となるが、防災機能を備えた公園となっている。都市型居住ゾーンについては、健康をコンセプトにした1,000戸近い大規模集合住宅開発になる。

健都イノベーションパークにおいては、摂津の世界に誇るものづくりの会社と新たに来られる企業を繋いでいきたい。摂津市では企業の誘致促進条例を持ち、新しく摂津に来られる方、また摂津で既に事業を行っておられて新たな投資をされる方には5年間固定資産税の2分の1相当額を奨励金として交付する制度を持っているが、健都イノベーションパークに進出される企業にも適用できるよう、この3月に条例の改正を行った。クラスター形成が効果的に図れるとともに、周辺環境にも配慮したまちになるよう、緑化や壁面後退などを盛り込んだ地区計画を7月に定めており、今後、これらの条件を盛り込んだ募集要項を定め進出企業を公募する予定であり、関係機関と連携したい。

・大阪府新井副知事より資料6を説明

(資料6の説明概要)

健都については、ライフサイエンス産業の新たな拠点と位置付け、健康医療関連企業等の誘致を着実に実現するため、これまでの国の総合特区と連動した税制支援制度の後継として、府が独自で区域や事業を追加できる成長特区税制を本年4月に創設し、今月の15日に健都を区域指定した。対象事業には、これまでの医薬品や医療機器などに加え、健都がターゲットとする健康関連事業を追加した。本制度の適用により、不動産取得税を最大ゼロにまで軽減する他、法人税についても府内における雇用の増加等に応じて軽減する。また本制度は地元市町が連携して取り組むことが条件であり、森山市長からも奨励金制度のお話があったように、両市にも対応をいただいたところである。いよいよ来月には公募が始まるということで、府としても地元市と一体となって、本制度を最大限に活用してターゲット企業の誘致を図ってまいりたい。

次に、国立健康・栄養研究所の健都への移転について。知事が塩崎厚生労働大臣に直接要請するなど、国に働きかけてきた結果、本年3月の国の基本方針において、健都への全部移転を盛り込んでいただいた。まだまだ課題はあるが、吹田市、摂津市と一体となって精力的に検討、協議を進め、今年度中の正式決定を目指してまいりたい。この移転を契機として、研究所と府内健康関連企業等との連携によるイノベーションの創出、府内市町村との連携による府民の健康寿命延伸に向けた取組に繋がるのではないかと期待しており、引き続きのご協力を宜しくお願い申し上げます。

○議題2「意見交換」

- UR：西村支社長 現地での様々な施設の建設工事がこれから本格化する。ご報告であるが、基盤整備については本年の3月18日に事業完了の法的な手続きを無事終えることができた。私共の役回りとしては、大きな一区切りであり、関係者の皆様のご協力の賜であると、この場をお借りして感謝申し上げたい。歴史を紐解くと、鉄道物流の大きな拠点として大阪の経済を牽引し発展させてきたこの場所が、100年経過して、今度は健康医療という大阪圏のみならず我が国全体の次のリーディング産業を担う場所になるということは、まちづくりを担わせていただいた当機構としては本当に光栄である。今後のこのまちの発展に大いにご期待を申し上げたい。
- 関経連：松村専務理事 私共は、健康医療産業の発展及び健康社会の実現を目指しており、昨年、健康医療専門委員会や産学官連携のプラットフォームである関西健康医療創生会議を立ち上げ、今年度はビックデータの利活用促進に向けたモデル事業等の検討を行っている。健都の健康医療をテーマとしたクラスター形成は、我々の目指しているビジョンと大いに重なり、大変興味を持っている。特に産学官に合わせて住民参加の形のまちづくりというのは大きな特長かと思うので、支援できるところは何でもさせていただき、健都の成功に貢献できればと思っているのでよろしく願いたい。
- 大阪商工：尾崎会頭 大阪府と摂津市のインセンティブは大変ありがたい。吹田市も含め、補助金や税制優遇をできる限り拡充し企業等の集積につなげていただきたい。

京都大学、大阪大学そして神戸大学等の研究機関との連携が非常に大切。うめきた2期や中之島、彩都にも色々な健康医療関係の研究所、施設ができるので、相乗効果を発揮していただきたい。商工会議所としても京都商工会議所、神戸商工会議所など他の商工会議所や経済団体との連携をさらに深めたい。

また、健都の特長として、住民のバイタルデータを活用するような仕組みもできるのではないかと。そうした仕組みができれば世界的にも非常に画期的な場所になる。さらに、新井副知事がおっしゃっ

た国立健康・栄養研究所移転を実現し、基盤研等の相乗効果を発揮していただきたい。

大阪商工会議所としても、医療健康分野で大学等研究機関と企業を結び付ける全国的なプラットフォームを運営しているが、これを拡大して努力していきたいと思っており、一緒に色々なことをやらせていただきたい。

- 吹田商工：柴田副会頭 地元商工会議所として、健康医療まちづくり委員会を設置し、医療機関、研究機関、大学と中小企業との橋渡しをすることなどを提言している。この実現の為に、今年の2月には、国立循環器病研究センター、大阪商工会議所、吹田市などから協力いただき、医療機器開発ビジネスセミナーを開催し、吹田産業フェアの中でも吹田市民の健康づくりフェスティバルを開催した。9月には健康医療ビジネスマッチング交流会を企画している。このように地域産業の活性化を通して、健康医療のまちづくりに関わっていく。ご支援、ご協力の程お願いしたい。
- 製薬協：川原専務理事 我々は新薬の開発を中心とした企業73社の集まりであるが、理事会等で健都の紹介をさせていただいている。大阪を地盤としている会員企業が多く、非常に関心は持たれている。先程尾崎会頭からお話があったように、企業が進出する上で非常に魅力のある環境になってきていると思うが、より魅力のある環境整備をしていただければと思う。

1つ確認したいのは、事業者の募集は8月のみということか？

- 小川理事長 ご質問等には、後でまとめて答えさせていただきたい。
- 医機連：中尾会長 今日初めて出席するが、以前から国循の妙中先生と、阪大の澤先生からも色々とお聞きしており、今日も大体の概要が出てきて、かなり進んでいると思う。イノベーションパークについては、大学から出て事業化する等々の時に生かされると非常に良いのではないかと思っている。妙中先生から国循の共同研究の話もお聞きしたりしており、今日の情報とともに理事会等でPRしたい。
- 阪大：野口病院長 久しぶりに大阪にとって大変明るい話で、是非協力させていただきたい。
会議のテーマから外れるが、心臓血管外科に関し、阪大病院では最近凄く症例数が増えてきていっばいになっているが、国循ではどんな体制を取られるのか。また、大阪大学は再開発を進めており、国循の返済計画について教えていただきたい。また、環境の観点はご配慮いただければと思う。
オープンイノベーションセンターのようなものは色々なところでされているが、特別工夫された点をお聞かせいただきたい。シーズを育てる段階では、トランスレーショナルリサーチや臨床試験にお金がかかる。自立して儲ける手段を考えないといけないが、その辺のお考えを伺いたい。
また、国際化に関してどのようなことをお考えなのかということも、お時間があればお答えいただきたい。
- 京大：平家副病院長 このプロジェクトは医療機関や研究機関に加えて、住民まで組み込んだ医療クラスターで、医薬品や医療機器、ヘルスケア産業の開発、実証ができる非常に独創的な概念で、また産業を創出できる場であると非常に大きな期待をもっている。高齢者のウェルネス住宅という話もあったが、小児からの先進医療など、切れ目のない研究や開発が展開できればと非常に期待している。
また、国循の経営面での取組を色々教えていただければ有難い。

京都大学としても、大学の施設や企業との関連、そういったものを持ちながらこのプロジェクトに参加し、大いに活用するとともに、新しい色々な企業に入ってきて、世界に名だたる医療クラスターとして育っていくことができると思っているの、よろしく願い申し上げます。

- 医薬基盤・健康・栄養研究所：米田理事長 新井副知事のご説明のとおり国立健康・栄養研究所を

健都に誘致いただいた。どういう形で移転してくるかということ、提案を受け、関係者と相談した上で検討している。色々な地方自治体からラブコールを受けたが、私どもにとって一番良い場所に移転できるということで非常に喜んでいる。

統合してどんなことができるのかというと、1つの例として、国立健康・栄養研究所の運動や食に関する調査をしているグループと医薬基盤研究所の免疫、感染症の研究者が共同して研究することで、どういう腸内細菌が健康にとって大事なかが分かり、健康食品の開発にも結びつくのではないかと考えている。そういった形で産業界にとっても、アカデミアにとっても素晴らしい研究所になり、健都が世界のモデル都市になるよう貢献できればと考えており、引き続きご支援をお願いしたい。

- 厚労省医政局：佐藤課長 私の課では、国立循環器病研究センターをはじめ、6つのナショナルセンターなどの医療機関の所管をしており、中でも国立循環器病研究センターの移転建替整備は、非常に重要な課題と考えている。オープンイノベーションセンターの整備構想は、関西イノベーション国際戦略総合特区計画に認定され、内閣府から調整費として予算を確保している。移転までに色々な課題が多々あるだろうが、センターと相談しながら、引き続き努力をしたいと考えており、皆様には引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いしたい。

- 経産省近畿経済産業局：吉野部長 イノベーションには産と学の連携も重要だが、産と産の連携も非常に重要である。この点に関して皆様方にマッチング機能を遺憾なく発揮していただくとともに、経済産業省としてももしっかりご協力、ご支援を申し上げたい。

去年ぐらいから世界的に IOT という流れが出てきており、第4次産業革命に繋がるのではないかとされている。住宅スペースなども実証フィールド、例えばウェアラブルな機器を活用する場として考えられ、バイタルデータを集積し利用していくといったようなことに繋がれば大変素晴らしいと考える。経済産業省では、IOT 関係の様々な取組を立ち上げており、ご相談いただければ近畿経産局としてもご支援申し上げたい。

- 国交省近畿地方整備局：寺本部長 今年3月に今後10年の関西の方向性を示す関西広域地方計画を策定したところであるが、この計画においても北大阪バイオクラスターを我が国の成長エンジンとなる医療イノベーション拠点として位置付けを行った。地方整備局においては、健都について、土地区画整理事業などに要する費用などの支援をしてきたところであるが、今後ともこのエリアがより快適なエリアとなるようインフラ整備などの分野で、しっかりと応援していきたい。

- 小川理事長 それでは、まずイノベーションパークの募集時期に関して、後藤市長から説明をお願いします。

- 吹田市：後藤市長 まず、募集に関して、第1期では8月に募集し、来年2月に1つの提案を決定する。その決定状況、業界や規模等を勘案し、第2期の募集を29年度中、来年度中に行う予定である。イノベーションパークの強みとしては、1点目は、圧倒的な交通利便性。国土軸上で利便性の高いフラットな土地であること。2点目として、周辺の人口密度が非常に高いこと。日本でも有数の人口密度を持つ良好な住宅都市の中にこの土地がある。しかも吹田市は今5年間で2万人ほど人口が増えている。3点目として、医療研究資源が集積し、北大阪全体で広域的なクラスターの形成が図られつつあること。4点目として、居住環境が十分に整備されており、災害安全性も非常に高い地域であること。最後に、梅田から12分という割に、地価を考えても、補助体制を考えても非常に買い得であるということ。この5点が強みだと考えている。

- 小川理事長 続いて、大阪大学の野口先生、京都大学の平家先生からのご質問のうち医学的なこと

私が応え、返済計画などに関しては局長からお答えする。

平家先生がおっしゃった小児に関して、最近では先天性心疾患の手術の成績が非常に良くなり、その子達が大きくなって新しい疾患概念として成人先天性心疾患と呼ばれ患者数が増加している。また、産科があるが、こうした方の中の女性が妊娠し、入院することもある。先生がおっしゃったように長期の予防と、成長に従ってずっと追っていかないといけないと考えている。

野口先生がおっしゃった点で、心臓外科に関しては循環器疾患が増えており、センターは日本で1、2を争う1,000例規模の症例数をこなしているが、外科医からはまだ受け入れ可能と言われており、困られた時はセンターで受け入れられる状況である。移植も1日2例やれる。個人的には、集約化して、いつ何時でも心臓外科手術ができる施設を国内に増やしていくべきだと思っている。

- 西辻局長 移転建替に関する返済計画だが、費用の多くは借入で賄うことになる。返済は、経営改善を進めつつ、手持ちのキャッシュと毎年の利益を充てる。現在の北千里の土地6.5haの売却益も含めて、数十年にわたり返済していくこととなる。非常に難しくて厳しい課題ではあるが、イノベーションを実現するため、皆様のご協力を経て、是非成し遂げたい。

オープンイノベーションセンターについては、研究部門だけでなく、臨床部門も含めた国循のリソースを駆使して結果を生み出したい。

オープンイノベーションセンターを含めた新センターのファイナンスの問題については、国からの運営費交付金が減少を続ける基調の下、コスト削減を進めるほか、外部の資金を確保し、また選択と集中により常に成果を見据えた研究の進め方、目標に沿った研究の進め方をより指向していくしかないと考えている。あまり答えになっていないが、ご質問を聞いて抱える悩みは大学も同じということを改めて実感した。

国際化の質問は、外国の富裕層をどういう形で受け入れていくのかという趣旨だと思うが、言語や生活習慣、宗教等色々異なる部分があり、個別にすべてを我々が対応することは難しいと考えている。様々な問題にパッケージで対応する仲介の会社が幾つかあるという話も聞いており、そうした会社を活用することも含めて検討しているところである。

- 小川理事長 子供に関しては、現在、センターのすぐ近くにある全国から来た子供の保護者が非常に安価で泊まれるマクドナルドハウスは、吹田市の協力を得て移転しようとしている。

また、吹田市民病院が隣接するのでトータルで患者を見るすばらしい環境ができる。

資金計画については、これからより真剣に考えていかなければいけないが、佐藤課長にもお願いをしながら何とかやっていきたい。

- 阪大：野口病院長 一点だけ。AROとしての機能は、国立がん研究センターレベルのものを持つのか

- 小川理事長 癌と循環器病では違うので、循環器はそこまでは中々難しいと思う。

様々貴重な意見をいただいた。健都医療クラスターの肝となるイノベーションパークの企業誘致が始まるということで大いに期待している。また企業選定にあたっては国循との連携を重視いただくということで、国循としても期待に応えてまいりたいと思う。我々も共同研究中の企業などにPRをしてきたが、委員の皆様方にもご協力いただきたい。

続いて、健都で複合商業施設、マンションをそれぞれ計画されており、本会議にオブザーバーとして参加いただいているJR西日本の谷部長と近鉄不動産の善本専務から事業進捗をご報告いただきたい。

- 西日本旅客鉄道：谷部長 健康医療と市民生活の両面を支援する施設として、岸辺駅の北側駅前広場西側の約 8,000 m²の土地に、延べ床面積で 27,000 m²の 9 階建ての建物を計画している。1 階にはスーパー等が入り、スーパーでは健康関連商品のコーナーを充実し、かるしおレシピを使った商品の提供も検討いただいている。また 24 時間営業する調剤薬局を考えている。交流スペースで、健康イベントセミナーや食育イベント、健康相談、セルフ健康チェック等の実施を検討している。2 階は岸辺駅や吹田市民病院と繋がり、飲食・物販、検診センター、クリニックモールが入居する。飲食については、健康食を提供できるテナントの誘致を考えており、クリニックモールにおいては、医療連携に対応したいと考えている。3、4 階は約 260 台の駐車場となっている。5 階のフィットネスクラブでは、予防医療に重点を置いた運営を検討いただいている。また高齢者の健康施設としてリハビリのデイサービスをやっている弊社のグループ会社であるポシブル医科学が入居する予定で、子育て支援施設として保育園なども検討している。6 階から 9 階は約 100 室の宿泊特化型のハイグレードなビジネスホテルを誘致している。今後も皆様方のご協力をいただきながら健康医療のまちづくりに資する施設としていきたいと考えており、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。
- 近鉄不動産：善本専務 都市型居住ゾーンについて、7 街区は、6 月に建築確認を既に取得致しており、過日、無事着工した。8 街区は現在基本計画を策定中である。本日は 7 街区部分についてご説明させていただく。建物は、地上 15 階建て 1 棟、地上 20 階建て 2 棟、全ての住宅が南東向きとなっている。15 階建てについては、平成 30 年の春の竣工を予定している。健都にふさわしい住まいづくりを目指しており、約 600m のランニングコース、雨天でも利用可能な約 400m のウォーキングコース、フィットネスマルチスタジオ、シアタールーム、音楽スタジオ、ブックラウンジ、スタディーールームなどを設置する。ソフト面では、国循と色々協議している最中であり、協議が整い次第発表させていただく。販売については、8 月下旬より本格的に広報活動を始め、10 月より具体的なご案内を始める。立地に加え、この健都の先進性、それを受けたマンションのコンセプトは、住宅を検討される皆様方から高い関心を持たれると期待している。当事業体としては、医療クラスターが目指す健康寿命の延伸を目指した予防医療の趣旨を見つめ、役割を担えればと思っているので、今後ともご協力、ご指導をお願い申し上げます。
- ・ 小川理事長：複合商業施設、マンションとも着々と準備を進められている。複合商業施設については、健都の中で様々な検討いただくということで、期待している。マンションに関しても、私共との間でマンション居住者の方々の健康づくりをサポートし、合わせて循環器疾患に関する研究を深めていけるような連携の具体化について現在協議を重ねているところであり、近々公表できるのではないかと考えている。企業誘致等に関しては、本日いただいたご意見を元に医療クラスター推進協議会などの場において詳細な検討を行っていくこととし、本日の会議はこれで終了する。

～ 以上 ～